

## 平成31年度 第2層横手地域協議体 「よこて支えあいネット」の取り組み

### ○構成員

民生委員、主任児童委員、福祉協力員、いきいきサロン代表世話人、農事組合法人、婦人会、NPO、子育てサークル、公民館職員、市職員など（14名）

### ○定例会開催回数

平成28年度…1回、平成29年度…11回、平成30年度…7回、令和元年度…7回

### ○生活支援協議体(協議体)の取り組み

地域で行われている交流活動や支えあい活動、福祉活動に積極的な人や団体などの「お宝」探し(情報収集)を行い、「地域の困りごと」などの情報と共に一覧表を作成したほか、お宝についてはチラシで地域へ情報発信を行った。また、交流活動を行う場所が無く、住民同士の交流が少ない町内を「支えあい推進モデル地区」に設定し、交流活動の拠点となるように空き家や市営住宅の空き部屋、中学校の空き教室などの活用について、市や学校への働きかけを行った。

#### 《主な取り組み》

#### ①地域のお宝等の把握と必要な取り組みの検討

構成員個々に地域のお宝や課題を情報収集し、協議体の都度情報共有を行った。なお、情報を一覧にまとめたことで、交流などの地域活動が少なくなった地区を把握することができたため、地域資源を活かしたつどいの場づくりなどを地域へ働きかけた。



～地域のお宝について情報交換～

#### ②広報用チラシの発行

協議体で把握した地域のお宝の情報を基に、つどいの場や町内会同士が連携して行った地域活動などをまとめたチラシを作成し、社会参加の拡大や担い手不足を解決する地域の工夫などを周知した。



～つどいの場などを周知するチラシ～